

2月12日(土)

第1会場

17:00~18:30 イブニングセッション

2階 講堂

デバイス植込み手技

【概要】

現在デバイスの植込みの多くは、外科手術のトレーニングを受けていない内科医によって行われている。先輩医師から習って行い、各自が工夫をしているのが現状である。そこには、植込み施設は多いが、一人あたりの植込み件数は少なく、なかなかトレーニングを受けられない現状もある。最近、中隔ペーシングが話題になっているが、一方で手術時間が長くなり、合併症を増加させる危惧がある。中隔ペーシング等の非通常部位への留置に必用とされるスクリーインリードに不慣れな医師が多いことも拍車をかけている。しかし、これまでの所、デバイスの植込み手技を主眼とする教科書は存在しなかった。そこで、今大会長の豊島健先生とも相談の上、実際の植込みの現場に立つ医師により、今回の日本不整脈学会植込みデバイス関連冬季大会に向けてデバイスの植込み手技に関する教科書を作る計画を立てられた。そして、豊島健大会長のご好意により、その内容の一部を発表する機会を与えて頂くことができた。本セッションが、デバイス植込み手技の参考になれば幸いである。

〔座長〕 井川 修 日本医科大学多摩永山病院循環器内科
石川 利之 横浜市立大学医学部第二内科

板橋中央総合病院不整脈・心不全科 ○中島 博

横浜市立大学医学部第二内科 ○石川 利之

広島大学病院心臓血管外科 ○今井 克彦

愛知医科大学医学部心臓外科 ○須藤 恭一